

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100097		
法人名	有限会社 大塚台夕月		
事業所名	グループホーム野の花		
所在地	宮崎市大塚台西3丁目23番地2		
自己評価作成日	令和4年10月14日	評価結果市町村受理日	令和5年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_topiigyosyo_index=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和4年12月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は閑静な住宅街の中で、自然災害の危険性の少ない高台に位置している。近くに児童館・保育園・小学校があり、日中は明るい元気な子どもたちの声や音楽を耳にすることができる。この3年余りコロナ禍で様々な行事・面会が制限されたが、短時間ながら子どもたちの慰問を受けたり、家族との窓越しの面会を行ってきた。またオレンジカフェに参加して当施設以外の方々と交流を深めている。施設内では毎日テレビ体操・室内歩行・公園への散歩・カラオケ・季節の行事を行うことで体力・気力の低下予防に努めている。医療面では全員往診体制をとり、状態に応じて歯科往診・リハビリ往診を取り入れている。常に家族共々、安心して生活できるよう、医師・看護師と密に連携をとるように心がけている。食事面では個々の嗜好・体調を考慮し、家庭的な食事を提供している。食事準備時に聞こえてくる台所の音や美味しそうな匂いを嗅ぎながらホールで楽しみに待っている姿は、グループホームだからこそ味わえる生活だと思っている。今後も当施設の特徴を生かしながら職員一同日々研鑽に努めたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは高台にある閑静な住宅街に立地している。近隣には保育園や児童館をはじめ、スーパーや銀行などの社会資源が豊富に点在している。全職員が理念の意義を理解し、利用者が地域と関わりながら、その人らしく満足した日々を過ごせるよう、一丸となって支援に取り組んでいる。自治会には開設当初より加入して、地域に密着した運営に取り組んでいる。現在コロナ禍のため交流や外出は難しい状況であるが、近くの住人から野菜やオムツ、雑巾などの差し入れが届くこともある。ホームには看護職員もおり、利用者それぞれの体力、気力の低下予防に努め、協力医との連携を密に取り、安心して穏やかに過ごせるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境の中でその人らしい生活が送れるようにいつも心掛けて寄り添うケアに努めている。理念は就業時に目につく場所に掲げ、共有している。	地域密着型の意義を全職員が理解して、地域との関係性を大切にしている。開設当初からの理念であるが、現状に即しているか、理念に沿ったケアができていないか等、見直しの検討は行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、回覧板を通して自治会行事(公園清掃)等にも参加して地域の人との交流を深めている。	開設当初から自治会に加入して、コロナ禍以前はホームの行事に住民を招待したり、ふれあいサロンに参加する等、積極的な交流を行っていた。現在も近隣の住民より野菜や雑巾等の差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前はホールを開放してカラオケ大会等をやっていたが、コロナ禍で中止。地域の方は雑巾や紙で作ったゴミ袋等を届けてくれた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、民生委員、家族代表、包括支援センター、地域代表に参加して頂き、年6回行っている。活動状況、空床、職員会議、コロナ禍状況等を報告している。	運動会に参加した推進委員からの提案で、新しい種目を取り入れる等、意見をサービス向上に反映させるよう努めている。	現在、会議の報告書は玄関に掲示されている。出席していない家族や関係者全員がホームの現在を窺い知ることのできるホーム便りなど作成して一緒に届け、確実に見ていただくための工夫を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍の中でFAX連絡が多かったのが常に市との連絡が多かった。オレンジカフェには野の花のスタッフ2人が参加して、「ひよっこ踊り」を披露し喝采を浴びた。	コロナに関する事や生活保護者に関する事など、電話や文書ではあるが、連絡は密にとっている。市主催の研修会にも積極的に出席するよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間以外はしておらず、身体拘束に関する研修会をして禁句と言われる言葉等を勉強している。申し送りノート等で職員同士の意見を共有している。	身体拘束適正化検討委員会を年4回開催し、参加者が全職員に伝達し共有している。年2回の研修会ではチェック表を使い、身体拘束についての理解度把握を行い、拘束をしないケアに取り組んでいる。	

宮崎県宮崎市 グループホーム「野の花」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待はもちろん、精神的虐待にあたる言動がないよう「禁句」と言われる言葉を心懸け、防止して努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用者さんがいらっしゃるので家族や後見人との関係等、全職員で理解し、権利を守る介護を活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な説明を行い、疑問点にはその都度明確に答えられるようにし、納得した上で契約締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年6回の運営推進委員会には、地域包括支援センター、自治会、民生委員、町づくり推進員会、家族代表に参加して頂き、活動状況を報告している。年1回の運動会には毎年参加して頂き、利用者、職員との交流を深めている。	運営推進会議には毎回、家族の代表者が出席している。コロナ禍による面会時間を決めてもらいたいとの意見や、利用者から以前のように散歩がしたいとの声があり感染対策に努めながら公園までの散歩をする等、意見を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日、申し送り帳に目を通し、スタッフや利用者に問題がないか把握している。常にだれでも気軽に相談できる環境を作っている。月1回の職員会議では皆で意見や試行の成果等話し合い、運営に反映させている。	1	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員が数年以上在籍経験があるため、安心して任せられる状況である。就業環境を職員の意見を取り入れ、働きやすい職場になるように努めていきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で団体の研修は控えているがリモート研修や研修等で知り得た情報は全員が共有できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターが主催するオレンジカフェに職員と利用者が参加し、他の事業所の方たちと交流し、情報交換を行っている。電話での情報交換も行い、サービスの質を向上させる取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者個々が不安のない生活を送れるよう、事前に情報収集をした上で、本人から希望や要望を聞き、サービスの計画を立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からも話しやすい雰囲気づくりに努め、傾聴し、関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族等からその時点で必要としている支援を聞きだし、支援を実施、実現できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんの小さな行動や言動を即座に気づき、声掛けて何を求めているかを気遣って聞いてあげ、話し合っって次に進めるようにしたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で、家族とは窓越しの面会しかできないので、利用者の日常の楽しい生活の様子を写真に撮り、エピソード等を話し、笑顔を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	退職した同僚が入居者を紹介してくれたり、退去した家族が別の家族を入居希望したりと、いつでも相談できる地域の馴染みの場として支援に努めている。	コロナ禍のため以前のような支援ができず苦慮している。短時間でもほっとしたひと時を過ごしてもらいたいとの思いで、今年は面会室を増設した。2か月に1回、以前からの美容師の来訪もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さんが楽しく毎日仲良く過ごせるよう、体操、カラオケ、お茶の時間等、孤立しないように平等に声かけをしたり、皆で会話がはずむように声掛け支援に気をつけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の様子を電話で伺ったりして、近況を確認している。退去後も家族から相談を受け現在は配偶者の入居予約を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの介護記録にケアプランを添えて一人ひとりの思いや生活を受け止めて、寄り添うケアに努めている。日々の暮らしの中で、情報や会話を申し送り、職員全体で共有している。	センター方式も活用しており、研修会にも参加している。日頃より利用者寄り添い、把握した希望や意向は全職員で共有し、ケアプランに反映させて利用者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントから過去の本人の生活習慣を把握し、施設での暮らしに活用できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	勤務交替の時に、一人ひとりの申し送りを受けている。変化のあった利用者についてはどう対応すべきか話し合い、職員が同じ支援ができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングについては担当割り全職員が毎月行っている。毎月のカンファレンスで個々の変化等を協議して介護計画に生かしている。コロナ禍もあり、家族とは電話で密に連絡を取っている。	利用者毎の担当者が中心になってモニタリングを行い、全職員で内容を確認している。介護計画は定期的に見直しているが、状態の変化がある場合には関係者と話し合い随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	夜間帯と日勤帯の介護記録は見分けがしやすいように色分けして記録され、介護計画の実践状況を把握し、次の介護計画に活かせるようにする。		

宮崎県宮崎市 グループホーム「野の花」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者個々に心身の状態に変化があるので、状態に応じて、オレンジカフェに参加したりカラオケをしたり、柔軟な支援・サービスを提供できるように取り組む。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域の人達との交流はできないが、ボランティアの人たちが雑巾を縫ってくれたり、ゴミ袋を作って届けてくれるなどしている。自治会主催の公園掃除にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人および家族の希望を大切に、かかりつけ医の専門的な意見を踏まえながら適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族の希望を聞き、同意を得たうえで利用者全員が協力医をかかりつけ医としている。定期的な訪問診療があり、夜間対応の体制も整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	全ての職員は、日常の関わりの中で捉えた利用者の体調の変化等の情報や気づきを早期に看護職に報告・相談し、利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時は安心して治療を受けられる様に又、退院時は入院時と同様に生活を送れるように、病院関係者と密に連絡を取り合い、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末医療については入居時に訪問医から説明を受けているが、今後予想される身体変化やホームで対応できる事、難しい事を電話やサービス会議で話している。家族の意向をその都度を訪問医、家族、職員で支援に取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期についての方針を説明している。利用者の状態の変化に応じて、家族や協力医など関係者と話し合い、できる限りの支援に取り組んでいる。看取りの経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の現在の身体状況から事故発生時の対応について、申し送りノートや職員会議で情報を共有しながら話し合いをしている。職員は応急手当の研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回行っている。夜間帯の避難方法と避難経路を毎日の散歩コースにしている。常に飲料水や食料品の備蓄に努めている。自治会主催の防災訓練にも参加している。	消防関係業者の協力を得て、年2回避難訓練を行っている。また、地域の防災訓練に参加したり、運営推進委員など地域住民との災害時協力体制も築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、特に「禁句の言葉」を意識して支援している。特に失禁した時や入浴介助の時は大声を出さない様気を付けている。	言葉かけについては日頃から、利用者一人ひとりのプライバシーに配慮するよう全職員が努めている。職員会議ではチェック表を使い、特に禁句について勉強している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、今「何がしたいか?」「何が食べたいか?」等希望を聞いている。誕生会等にはできるだけ希望に添うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調に合わせて日々を過ごされる。体操や室内ウォーキングは個々のペースで楽しく行う。カラオケも好きな人は得意な歌を唄われる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の着たい服を選んで着ている。髪は2か月毎に美容師さんが来られ希望の髪型にカットして頂く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事の日の食事は利用者からのリクエストに応じている。外食感を感じてもらう為に、プレート等で好み焼きやたこ焼きをする事もある。毎日の食後には職員と一緒にお盆拭きやテーブル拭きを手伝っている。	食事はホームで職員が手作りしている。好みや希望を考慮したり、イベント食はリクエストに応えるなど食事が楽しくなるよう工夫している。利用者は力量に合った手伝いを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりに応じた型でミキサー食や経腸栄養剤の利用やトロミの利用等、状態や力にあった支援をしている。夏場の水分補給には清涼飲料水でバランスを摂っている。		

宮崎県宮崎市 グループホーム「野の花」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ひとりひとり口腔ケアを行い、夜は入れ歯洗浄剤に浸け清潔にしている。その人に応じた口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らすために一人ひとり排泄パターンを把握し、トイレの声掛け誘導を実施している。立位出来ない方も2人介助で自立に向けた支援を行っている。申し送りの時は必ず一人ひとりの排便状況を報告している。	排泄パターンの把握に努め、自立に向けた支援に取り組んでいる。入居当初オムツだった利用者が布パンツ+パットに改善した例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動・ストレスのない環境作り、栄養や水分などを考え取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は冬は週2回、夏は週3回行っているが、希望があれば柔軟に対応している。バイタルチェックの後一人ひとりの希望に合わせて入浴する。順番を入れ替えたり、温度、言葉かけ、水分補給など個々に添った支援をしている。	季節により入浴回数を調整しているが、希望があればできるだけ応えるよう努め、体調や気分に合わせて柔軟に対応している。脱衣所と浴室は季節に合わせて適温にし、ヒートショック予防に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯、寝れない方は、会話をしたり廊下を軽く歩行運動をしたりしている。休息が快適に出来る様に室温もチェックしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前に利用者の名前を読み上げ、本人と一緒にチェックしている。新しい薬は目的や副作用を連絡ノートで伝えたり、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の仕事や趣味など理解して、本人の反応を見ながら充実した日々を過ごす様取り組んでいます。		

宮崎県宮崎市 グループホーム「野の花」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍なので、外出を控えている。家族の面会は窓越しで行っている。オレンジカフェは色々な制限をして実施された。利用者さんも交替で参加し、とても楽しそうであった。ホームの庭で野外ランチ等もして支援している。	天気の良い日には散歩をしたり、敷地内でゆっくりと外気浴を楽しんでいる。また、週に1回移動スーパーに立ち寄ってもらい、感染対策に努めながら買い物を楽しむこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には預り金としてホームの方で管理しているが、移動スーパー車の買い物等は、各自自分の財布の小銭で好きな物を買って楽しんでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で面会制限があったので、家族との関係を密にする為に、電話をかけたり、SNSで送ったりして支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事をしたり、日中過ごす事が多いホールには四季折々のお花を生け、行事の写真を貼ったりして、会話のきっかけになるよう心掛けています。洗面所・浴室・トイレ等は常に清潔を保っている。	コロナ対策のために、換気基準を決め清潔維持に努めている。壁面には利用者の作品や写真など掲示したり、季節の花を生け生活感や季節感を取り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの2か所にソファを置き、テレビを観たり昼寝をしたり、馴染みの利用者同士で会話できるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた寝具、衣類、茶わん等を持参して頂き、できるだけ家庭と同じ雰囲気生活できるよう工夫している。	居室には使い慣れた鏡台、机、テレビや大好きな植物の写真などがあり、安心して居心地よく過ごせるように支援している。通りに面した部屋には職員手作りのカーテンがそれぞれ掛けてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立出来る方は奥の部屋、目の不自由な方はトイレの横、介助の必要な方はホールに面した居室になっており、常にスタッフは安全・迅速に工夫をしている。		